



特定の話題

2011.3.11 M9.0 地震発生

救援ボランティア募集開始

受け入れ相談可能な病院一覧



2011.3.11 M9.0 地震発生

ニュースの更新が、遅くなりました。すみませんでした。組織の構成が徐々に進みつつありますので、今後は2日に1回は更新します。

さて、事務所の本部機能は多くのボランティアに支えられています。相談機能とともに派遣先との調整、情報の整理など様々な活動にあたっています。

派遣のソーシャルワーカーの状況は、現地の活動状況をご覧ください。第一陣として、頑張ってお返事をさせていただきます。岩手にも、福島にも、支援のニーズがあるのではないかと、要請のあるところもいくつかあります。岩手にも、福島にも、支援のニーズがあるのではないかと、要請のあるところもいくつかあります。岩手にも、福島にも、支援のニーズがあるのではないかと、要請のあるところもいくつかあります。

ボランティア募集は切実です。可能性のある方は、是非積極的に参加して下さい。

交通費の実費は基金から支出しますが、岩手にも、福島にも、支援のニーズがあるのではないかと、要請のあるところもいくつかあります。岩手にも、福島にも、支援のニーズがあるのではないかと、要請のあるところもいくつかあります。岩手にも、福島にも、支援のニーズがあるのではないかと、要請のあるところもいくつかあります。

石巻市の拠点では、亀田総合病院の小野沢先生と、協働体制で取り組んでいます。当協会の理事の東海大学病院の谷亀先生も活動しています。ソーシャルワーカーへの期待が高まる中、社会的使命を具体的にどう果たしていくのか、問われるところです。

全国の病院長の先生に、ソーシャルワーカー派遣の依頼文書を出すことも考えていますが、とりあえず、ボランティアの希望がある方は、事務局にお申し出ください。医師会会長は賛同する旨、会議決定して下さいましたので、連名で公文書を発出します。

義援金

4月5日現在
皆様から寄せられた義援金総額は2,133,000円です。
災害基金として積み立てられていた金額と合わせて3,418,343円となりました。ありがとうございます。深く感謝申し上げます。

当協会ではこの事業を公益目的事業4と位置付け、活動しています。

公益社団法人は特定公益増進法人に該当するために、寄附者は寄附金控除を受ける事が出来ます。

義援金(寄附金)をお寄せくださった方はお申し出があれば、寄附金領収書証を、お送りします。

目次

ニュース記事	2
ニュース記事	3
ニュース記事	4
まとめ	8



受け入れ相談可能な医療機関一覧(2011/04/04 現在)

募集開始から、現在までの相談可能な医療機関一覧。

現在の現地ボランティア活動状況

仙台若林体育館より

この度「生活機能対応専門職チーム」が結成され、4月4日からの始動に先立って、4月2日に都内で打ち合わせ、結団式、現地実践のための研修会が開かれた。このチームは、避難所で暮らす人々に起こりやすい生活不活発病を予防するため、(独)国立長寿医療研究センター生活賦活研究部の大川医師が事務局となって発足し、リハビリテーション専門医、PT、OT、ST、介護福祉士、SWがメンバーとして組織されました。大川医師が仙台市・仙台市医師会と協議し、仙台市若林区の避難所のうち、まずは若林体育館・七郷中学校武道館から活動を展開していくことになりました。このチームの現地窓口はPT協会の伊藤智典氏です。

4月3日、朝6時半に都内を出発して車で仙台市若林区まで移動し、14時に第一陣のチームメンバー（大川医師の他、医師1人、PT3人、OT2人、ST2人、介護福祉士2人、SW2人）が集合。この日は市の保健師から現状の説明を受け、若林体育館の見学、活動内容に関する打ち合わせを行いました。保健師の説明では、被災から3週間が経ち、被災者の生命、そして居

場所の確保がなされた今、生活不活発病予防のため保健師から避難者に体を動かす提案を始めています。

4月4日、活動を開始。避難所生活を送る人の中でも若い人達は、日中は仕事に行ったり自宅を見に行く等不在であり、比較的高齢の方が避難所に残っている。今後の活動の詳細は次報に。

仙台担当 一原綾子

石巻遊楽館より

先遣隊の私の役割は、現状把握と現地のボランティア業務の確立です。現地ボランティアの場合は、石巻市の指定避難所の一つである遊楽館です。ここには、介護を必要とする人が多くいらっしゃいます。介護を必要とする被災者の方たちの二次避難先の確保が主業務になると考えます。ミクロにとどまることなく、メゾ、マクロの展開をしていくことが、協会としてボランティアを組織で取り組む意味だと考えております。

遊楽館では、石巻市立病院の職員の方たちが業務を行っています。石巻市立病院は津波のため病院機能が停止し、3日間、500人が孤立し救援が得られなかったそうです。患者さんの救助を終え、その

後、遊楽館の業務に就かれています。職員の方も被災し、命を絶たれた方もいらっしゃいます。また、職員の多くは自動車を津波で流され、移動手段を失った状態です。専門家自身も被災者でありながら、人を支援する業務に戻っておられます。被災地の現状は、被災者が被災者を支援するという厳しい状況です。心身の疲労がピークになりつつあるように感じます。被災地の専門家支援の必要性を実感しております。会員の皆さん、今、医療ソーシャルワーカーができる支援内容を一緒に考え、行動していきましょう。石巻拠点立ち上げの取り組みを少しずつご紹介していきたいと思います。石巻担当 草水美代子（4月2日記）

4 ここにタイトルを入力